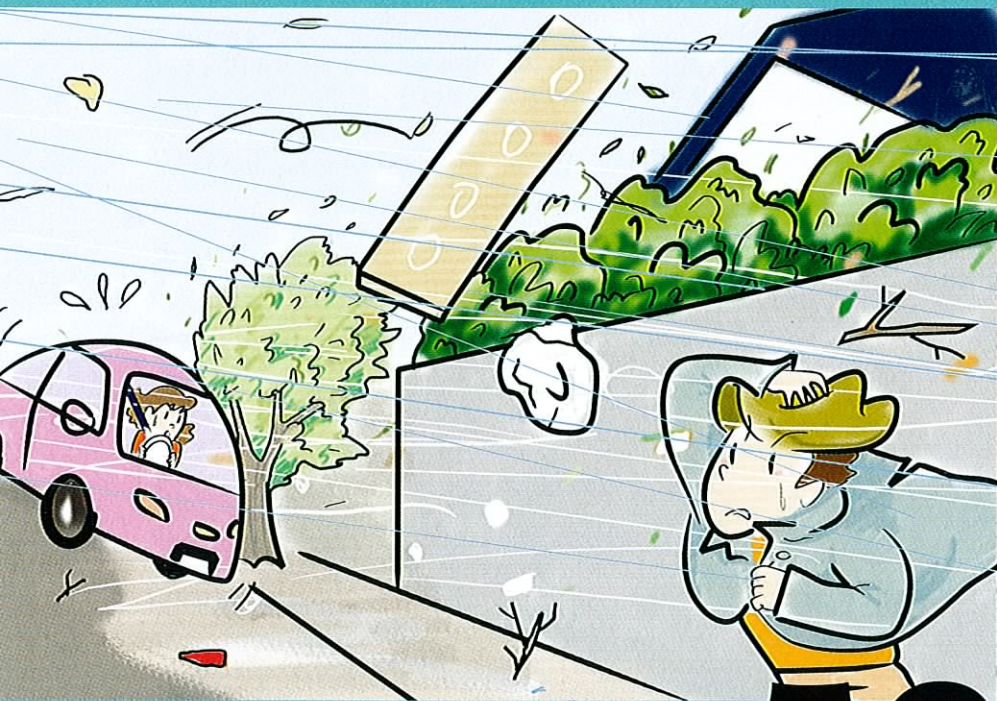


この時の雨は
何ミリ!?!?



この風は
?メートル

雨の強さと降り方

(平成12年8月作成)
(平成14年1月一部改正)

1時間降雨量 (ミリ)	予報用語	人の受ける イメージ	人への影響	屋内 (木造住宅を 想定)	屋外の様子	車に乗っていて	災害発生状況
10以上 20未満	やや強い雨	ザーザーと降る	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	雨の音で話し声が良く聞き取れない	地面一面に水たまりができる		この程度の雨でも長く続く時は注意が必要
20以上 30未満	強い雨	どしゃ降り	傘をさしていてもぬれる	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく		ワイパーを速くしても見づらい	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模の崖崩れが始まる
30以上 50未満	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る			道路が川のようになる	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる(ハイドロプランニング現象)	山崩れ・崖崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要 都市では下水管から雨水があふれる
50以上 80未満	非常に激しい雨	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)	傘は全く役に立たなくなる		水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	車の運転は危険	都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある マンホールから水が噴出する 土石流が起こりやすい 多くの災害が発生する
80以上	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある 恐怖を感じる					雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要

注1 表はこの強さの雨が1時間降り続いたと仮定した場合の目安を示しています。この表を使用される際は、以下の点にご注意下さい。

実際に降った雨量が同じであっても、降り始めからの総雨量の違いや、地形や地質等の違いによって被害の様子は異なることがあります。この表では、ある雨量が観測された際に通常発生する現象や被害を記述していますので、これより大きな被害が発生したり、逆に小さな被害にとどまる場合もあります。

注2 「強い雨」や「激しい雨」以上の雨が降ると予想される時は、大雨注意報や大雨警報を発表して注意や警戒を呼びかけます。なお、注意報や警報の基準は地域によって異なります。

猛烈な雨を観測した場合、「記録的短時間大雨情報」が発表されることがあります。なお、情報の基準は地域によって異なります。

注3 この表は主に近年発生した被害の事例から作成したものです。今後新しい事例が得られたり、表現など実状と合わなくなった場合には内容を変更することがあります。

■道路が川のようになる



風の強さと吹き方

(平成12年8月作成)
(平成14年1月一部改正)

平均風速 (m/秒)	およそ の時速	風圧 (kg重/m ²)	予報用語	速さの目安	人への影響	屋外・樹木の 様子	車に乗っていて	建造物の被害
10以上 15未満	～50km	～11.3	やや強い風	一般道路の自動車	風に向かって歩 きにくくなる 傘がさせない	樹木全体が揺れる 電線が鳴る	道路の吹流しの 角度、水平(10m /S)、高速道路で 乗用車が横風に 流される感覚を 受ける	取り付けの不 完全な看板やト タン板が飛び始 める
15以上 20未満	～70km	～20.0	強い風		風に向かって歩 けない 転倒する人もで る	小枝が折れる	高速道路では、横 風に流される感 覚が大きくなり、 通常で速度で運 転するのが困難 となる	ビニールハウス が壊れ始める
20以上 25未満	～90km	～31.3	非常に強い風 (暴風)	高速道路の自動車	しっかりと身体 を確保しないと 転倒する			鋼製シャッター が壊れ始める 風で飛ばされた 物で窓ガラスが 割れる
25以上 30未満	～110km	～45.0			立ってられない 屋外での行動は 危険	樹木が根こそぎ 倒れはじめる	車の運転を続け るのは危険な状 態となる	ブロック塀が壊 れ、取り付けの 不完全な屋外外 装材がはがれ、 飛び始める
30以上	110km～	45.0～	猛烈な風	特急列車				屋根が飛ばされ たり、木造住宅 の全壊が始まる

注1 表に示した風速は、10分間の平均風速です。風の吹き方は絶えず強弱の変動があり、瞬間風速は平均風速の1.5倍から3倍以上になることがあります。

風圧Pは風速Vの2乗に比例します。上の表は箱型の建物の壁が受ける圧力を示しています。(P=0.05・V²:P風圧、V風速)

この表を使用される際は、以下の点にご注意下さい。

- (1) 風速は地形や廻りの建物などに大きく影響されます。風速は、風速計が置かれている地点での観測値ですが、同じ市区町村であっても周辺の地形や地物の影響で風速は異なります。
- (2) 風速が同じであっても、対象となる建物、構造物の状態や風の吹き方によって被害が異なる場合があります。この表では、ある風速が観測された際に、通常発生する現象や被害を記述していますので、これにより大きな被害が発生したり、逆に小さな被害にとどまる場合もあります。

注2 「強い風」や「非常に強い風」以上の風が吹くと予想される時は強風注意報や暴風警報を発表して、注意や警戒を呼びかけます。なお、注意報、警報の基準は地域によって異なります。

注3 この表は主に近年発生した被害の事例から作成したものです。今後新しい事例が得られたり、表現など実状と合わなくなった場合には内容を変更することがあります。

■風に向かって歩けない



防災気象情報の正しい 理解と適切な利用を

気象庁から発表する雨や風についての防災気象情報の中で「激しい雨」「非常に強い風」などと表現される雨や風は実際どのような降りかた、吹きかたをするのでしょうか。また、それによってどんな被害が想定されるのでしょうか。

雨・風の強さに応じた人や建物などへの影響のしかたを示した表によって、雨や風の強さを、数値だけでなく具体的なイメージでわかっていたできるようにしました。

これを活用して、防災気象情報をより身近なものにしていきたいと思えます。

雨・風に関する気象情報には このようなものがあります

気象情報の種類	情報文の内容例
低気圧に関する全般気象情報	発達した低気圧の通過に伴い、明日から明後日にかけて西日本の太平洋側で風雨が強まる見込み。
大雨注意報	明日の朝まで1時間に20ミリの強い雨が降り、総雨量は130ミリに達する見込み。
大雨警報	今夜にかけて1時間に60ミリの非常に激しい雨のおそれ。厳重に警戒。
記録的短時間大雨情報	18時10分○△県で記録的短時間大雨。 ●▲市付近で約90ミリ。
強風注意報	冬型の気圧配置が強まり、今日日中陸上でも15メートル以上の強い風が吹く見込み。
暴風警報	台風の接近により、陸上でも25メートルを越す非常に強い風が吹く見込み。厳重に警戒。

気象庁 予報部

〒100-8122 東京都千代田区大手町1-3-4

電話03-3212-8341(代)

<http://www.jma.go.jp/>

2003年3月 2版